

## 山王社

〔室町五条坊門山王町にあり、総持院と号す。古へは叡山の別院にして伝教大師の勸請なり。祭神は国常立

尊にて、本地薬師仏を安置す。毎年四月中の申日、坂本山王祭宵宮、未の日此所より七社の神供かずぐ調へて嚴重に列をつらね、まづ天台座主の御所へ捧げ奉り、御加持あつて、それより坂本の本社へ献ず。これを未の御供と称す。古へよりの流例にして今に怠慢なし〕

## 早尾社

〔同所にあり、祭神猿田彦命さるだひこのみこと。

弘治年中に靈告ありて、青面金剛を安ず、世に庚申社と称す。近年安永の末住

## 主普門僧都当社を再営す

## 牛頭天王社

〔烏丸通高辻からすまるたかつじの北大政所町大善院ぜんゐんの内にあり、古へ祇園ぎをんの御旅所なり。中頃秀吉公の母堂大政所の第

あり〕

## 肉桂水

〔新町通六角の南、人家の奥にあり。竟て清冷にして寒暑に増減なく、自然と香氣あり、故に名とす〕

## 亀龍院

〔錦小路新町の西にあり、真言宗随心院ずゐしんに属す。初は淳和帝じゆんわの御願にして弘法大師のひらく所なり。棟木の

銘に曰、天長六年西八月建立と云云。凡今に到り九百五十余年回祿の災なし、市中に於ていまだ此類を聞ず〕額〔日出

愛染明王あいぜんと書す、仏殿の軒に掲る、九条関白尚実公ひさざねの御筆なり」

本尊愛染明王あいぜんみやうわう「弘法大師の作、坐像一尺五寸許」亀薬師かめやくし「寺内に安置す、金銅仏、一尺五寸許、亀甲に立せ給ふ。古へ浦島太郎の子龍宮より将来しけるとぞ」

道祖神社だうそじんの「新町通松原の角、人家の裏にあり。今首途神いまかしてと称す。或京程の囷に五条の南、西洞院の東南半町。又一

本に曰、角四分一と云云」

宇治拾遺曰 道命阿闍梨だうみやうあざり「伝大納言道綱の子」とて色にふけりたる僧ありけり。和泉式部いづみしきぶに通ひけり。経をめでたく

読ける。それが和泉式部のがりにゆきてふしたりけるに、目さめて経を心すましてよみける程に、八巻よみはて、  
暁にまるまんとする程に、人のけはひのしければ、あれは誰ぞと問ければ。おのれは五条西洞院辺に候翁に候、此  
御経をこよひ承ぬる事生々世々わすれがたく候と云ければ、道命だうみやう曰、法華経をよみ奉る事は常のことなり、こよひ  
しもかくはいはるゝぞと云ければ。五条の道祖だうその曰、清くて読まいらせ給ふ時は、梵天帝釈ぼんでんたいしやくをはじめ奉りて聴聞せ  
させ給へば、翁などは近付まいりて承るにおよび候はず、こよひは御行水も候はで読奉らせ給へば、諸天も聴聞候  
はぬ隙を、翁参りて承さふらひぬる事の忘れがたく候なりと云ひて去にける。

たひらのまゝかど  
平将門社

〔新町通の西、四条の南、膏辻子かうやくのつじにあり。天慶三年俵藤太秀郷等将門まさかどを滅し、頸を此所に梟しとなり。後世此地に家を建れば崇あり、故に神に祝ひて神田明神かんだと崇む。其頃空也上人寺くうやを建て空也くうや供養の道場と呼ぶ、今音声通じ謬りて膏辻子かうやくのつじと地名ちがひに呼ぶ。空也上人将門まさかどの亡霊をこゝに供養し石を建て印とす、今高さ三尺許の瓜のごときなる石社内いしやうちにあり、これを神体とす。又石塔の台石隣家の下に圧れありとなん〕